

1. 研究課題名：アジア低炭素社会に向けた中長期的政策オプションの立案・予測・評価手法の開発とその普及に関する総合的研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

甲斐沼 美紀子 ((独)国立環境研究所地球環境研究センター)



3. 実施期間：平成 21～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

2008年7月に開催されたG8北海道洞爺湖サミットでは、長期目標として、「2050年までに世界全体の温暖化ガス排出量を少なくとも50%削減するとの目標を、世界全体の目標として採用することを求める」との認識で一致した。しかしながら、2050年までに温室効果ガス排出量世界半減という目標を実現するためには、2050年に、世界人口の半分以上、温室効果ガス排出量の半分以上のシェアを占めると予想されているアジア地域において低炭素社会を実現する方策を検討することが不可欠である。

本プロジェクトでは、アジア地域において、先進国が歩んできたエネルギー・資源浪費型発展パスを繰り返すのではなく、経済発展により生活レベルを向上させながらも、低炭素排出、低資源消費の社会に移行する方策について検討し、その発展パスを描く。そのため、多様なアジアの低炭素発展の可能性、アジア地域における包括的な気候変動レジームの検討、持続可能な資源管理研究、低炭素交通システム研究を行うことにより、全体像を把握し得るアジア低炭素社会シナリオを開発する。

本プロジェクトでは、アジアの研究者とのネットワークを通じて、現地の状況を勘案した低炭素社会シナリオやそこに至る道筋を同定する。アジア低炭素社会実現に向けた施策立案に貢献するとともに、具体的な削減の可能性を示すことにより国際交渉への支援を行うことが期待される。

5. 研究項目及び体制

- ① アジアを対象とした低炭素社会実現のためのシナリオ開発 ((独)国立環境研究所、京都大学、みずほ情報総研、日本エネルギー経済研究所)
- ② アジア地域の低炭素型発展可能性とその評価のための基礎分析調査研究 ((財)地球環境戦略研究機関、広島大学)
- ③ 低炭素アジア実現へに向けた中長期国際・国内制度設計オプションとその形成過程の研究 (東京工業大学、(独)国立環境研究所、国際大学)
- ④ 経済発展に伴う資源消費増大に起因する温室効果ガス排出の抑制に関する研究 ((独)国立環境研究所、みずほ情報総研、東京大学、名古屋大学)
- ⑤ アジアにおける低炭素交通システム実現方策に関する研究 (名古屋大学、日本大学、東京工業大学、横浜国立大学)

6. 研究のイメージ

